

立憲民主党

様

2023年4月26日

(識別標識 氏名)

電話FAX xxxx-xx-xxxx

(メールアドレス)

<https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/>

軍需産業支援法案の採決を許さず、阻止を貫いて下さい。
防衛財源の確保法案も同様です。

これらの法案は、憲法とその精神に明白に反し、その名に「立憲」を掲げる政党として、これらの法案の成立に少しでも手を貸すことは、あり得ないはずです。また、アイゼンハワー大統領の有名な「軍産複合体演説」は、古くなるどころか、今日ますます重要性を増しています。

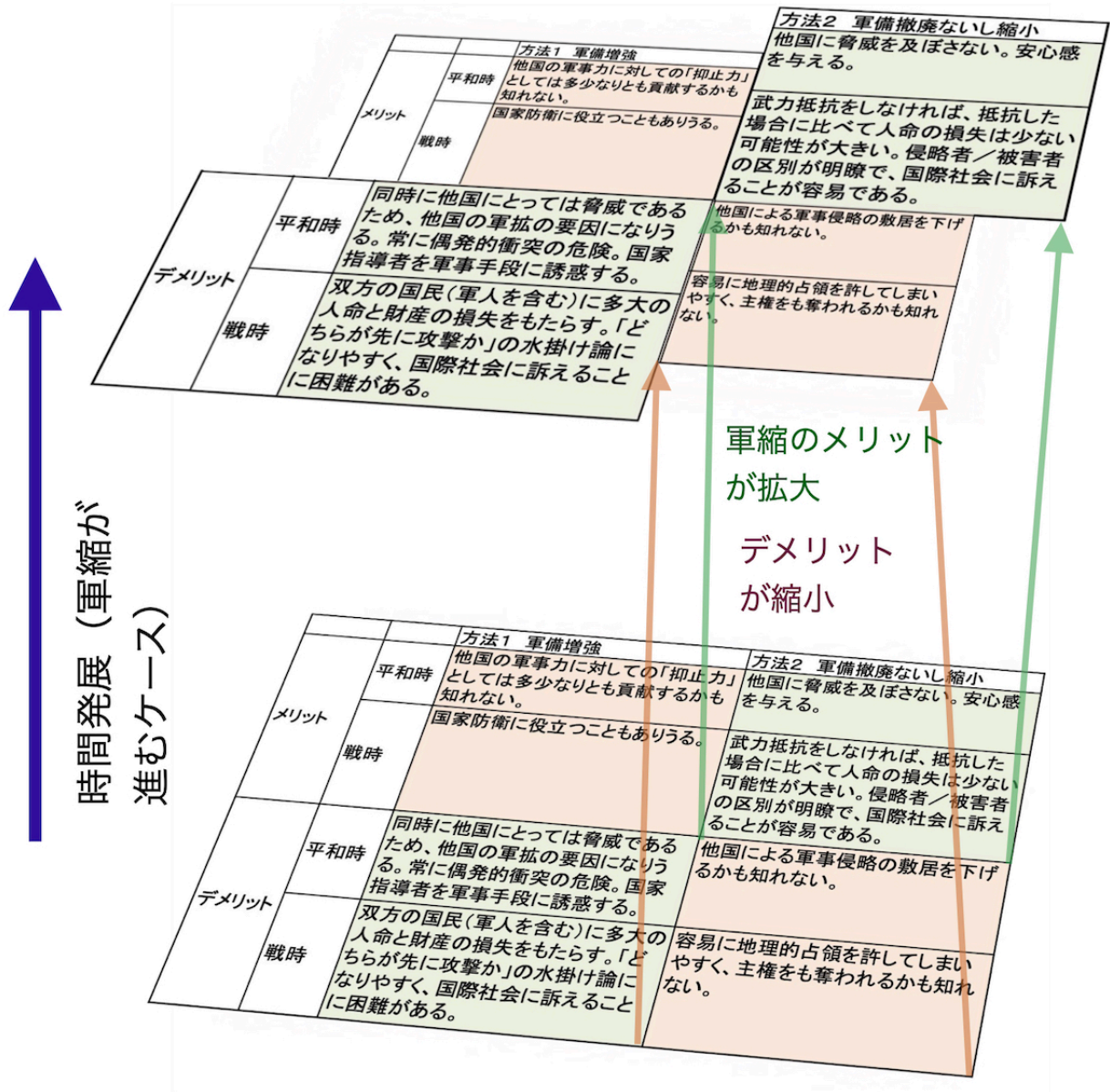
軍拡と「抑止力」、deterrence、すなわち脅しつけによる平和が不安定なことは誰でも分かることです。このような政策で、同様の政策を取る他国の仲間入りをするのはではなく、軍縮と軍備撤廃による永続する平和を目指す他に道はありません。ご賢察を期待しています。

軍拡と軍縮がどちらがより平和につながるか、公平な比較をしてみます。
単純には、以下のように「どっちもどっち」ということでしょう。

		方法1 軍備増強	方法2 軍備撤廃ないし縮小
メリット	平時	他国の軍事力に対する「抑止力」としては多少なりとも貢献するかも知れない。	他国に脅威を及ぼさない。安心感を与える。
	戦時	国家防衛に役立つこともありうる。	武力抵抗をしなければ、抵抗した場合に比べて人命の損失は少ない可能性が大きい。侵略者／被害者の区別が明瞭で、国際社会に訴えることが容易である。
デメリット	平時	同時に他国にとっては脅威であるため、他国の軍拡の要因になりうる。常に偶発的衝突の危険。国家指導者を軍事手段に誘惑する。	他国による軍事侵略の敷居を下げるかも知れない。
	戦時	双方の国民(軍人を含む)に多大の人命と財産の損失をもたらす。「どちらが先に攻撃か」の水掛け論になりやすく、国際社会に訴えることに困難がある。	容易に地理的占領を許してしまいやすく、主権をも奪われるかも知れない。

しかし、時間の要素を考えると、軍縮を選ぶことそれ自体で、そのメリットを拡大できることが分かります。次の図をご覧ください。

軍縮、軍備撤廃を選んだ場合の時間発展



以上です。